

【別紙様式1】

平成30年度 大分市立碩田学園 学力向上プラン1（8月）

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○大分県学力定着状況調査では、5年の国語と理科で県平均(正答率偏差値)を上回ったが、算数の図形や四則計算で課題が残る。8年は全教科において県平均(正答率偏差値)を上回った。 ○全国学力・学習状況調査では、6年、9年ともに全教科において全国平均(正答率偏差値)を上回った。</p> <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 効力感アンケート(昨年度と今年度1学期の比較) 中期5～6年 後期8～9年 ・グループ学習やグループ活動は考える時に役に立つ 中期 82.4%→78.7% 後期 80.8%→86.3% ・自分の考えを伝える機会がある 中期 74.7%→70.8% 後期 73.7%→76.9%</p>	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○「ほぼ毎日家庭学習をしている」の肯定率は、5年生で67.9%、8年生では80.0%である。 ○各学年の目標とする学習時間の率については、5年生で1時間以上が70.6%、6年生で83.2%と良好である。8年生では2時間以上が40.0%、9年生では3時間以上が17.1%であるが、全国や県に比べると、やや高い傾向はある。 ○「自分で計画を立てて学習する」の肯定率は、4学年とも50%前後であったが、与えられた課題には取り組めている。 以上のことから、「学習時間の確保」と「主体的な学習」が課題である。</p> <p>○「授業で話し合う活動をよく行っていたか」の肯定率は、5年生は83.9%、6年生は75.7%、8年生は93.6%、9年生は85.7%と高いことから、主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業実践の成果が見られる。</p>
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況 ○支持的風土の醸成(教室環境、学習規律の徹底、関係づくり)・「新大分スタンダード」に基づく1時間完結型の授業づくり(対話の重視)により自己肯定感を高める指導を継続している。</p> <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○補充学習の実施(5年生以上の朝学習、1～4年生のスキルタイム実施、夏季休業中の4～9年生の補充指導) ○家庭学習指導(家庭学習時間の目安設定、学習の手引きの活用) ○読書指導(読み聞かせ、読書タイムの実施)</p>	

学力に関する達成指標	○各種学力調査における結果において、各教科で全国平均を上回る項目を95%以上
------------	--

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	(授業改善テーマ) 9ヵ年を見通した系統的な指導を図る中で「主体的・対話的で深い学び」を実現する	(達成指標) ○家庭学習習慣の肯定率80% ○家庭での対話・声かけ率100%
	(授業改善の重点) ○課題解決の過程における対話の重視 ○板書の構造化 ○ICT活用などによる授業のUD化	
	支持的風土の醸成	学習習慣の形成
	(取組内容) ○めあて・課題・まとめ・振り返りの適切な設定と問題解決的な授業の工夫 ○生徒指導の3機能を生かした授業の工夫 ○主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習展開 ○ねらいに応じたICT活用と視覚支援(授業のUD化による分かる授業づくり)	(取組内容) ○授業5原則の徹底 ○家庭学習の習慣化 ○授業と連動した家庭学習の実施と指導
	(取組指標) ○驚きや発見を生み出す対話を1時間に1回以上 ○生徒指導の3機能を生かした授業展開 81%→85%以上 ○プレート(本時の目標・課題・今日の流れ・まとめ)を活用した授業展開 100% ○ICTの活用を1単元に1回以上	(家庭・地域の取組内容) ○家庭学習の習慣化 ○基本的な生活習慣の確立 ○家庭での対話や声かけを行う ○学校の取組への理解を深める ○親子清掃と花いっぱい活動の実施 ○地域でのあいさつや声かけを行う
	(取組指標) ○毎時間、授業5原則に基づく学習指導の実施 ○家庭学習の習慣化を図る「碩田学園学習の手引き」の活用 100%	(家庭・地域の取組指標) ○毎日、家庭で対話をする。 ○毎日、家庭学習について声かけや励ましをする。 ○年間3回以上、学校行事(授業参観等)に参加する。 ○地域で出会った子供に、あいさつや声かけを行う。
	【その他の学力向上の取組】 ○補充学習の実施・個に応じた指導 ○読書指導 ○少人数指導・習熟度別指導等の実施	